

今や全国区! のブリストルなまり

BBCの人気番組『Little Britain』の中での、Matt Lucas 演じるティーン・エイジャーのキャラクター、Vicky pollard の話し方こそが、まさにブリストルなまり。番組を見た後は、彼女の 'Yeh-but-no-but' というフレーズが耳から離れない、という読者の方もたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。

いくつかその例をあげてみると...

ブリストルの人々は 'Bristol' のことを、'Brizzle' と呼びます。また、'gert lush' といえば、それは 'very nice' の意味だそう。

ほかにも、'Awwright me luvver' = 'Alright my friend?' や、'Yer tiz' = 'Here it is' など、耳を澄まして聞いても、聞き取るのはなかなか難しいブリストルなまり。



市内にあるニュースエージェントの看板。BOOZE はもちろん、お酒のことですが、NOOZE はブリストル方言で 'NEWS' のこと

でも、せっかくブリストルを訪れるなら、何かひとつくらい使えるフレーズを覚えておくとよいかも。例えば、バスを降りるときのドライバーへのお礼のあいさつ、

'Churz drive' = 'Cheers/Thank you driver' なんていかがですか？

いくつもの大洋を渡った姿を彷彿とさせる威風堂々とした姿



Gas Ferry Road Bristol BS1 6TY

Tel: 0117 926 0680

10:00-17:30 (4 ~ 10月)、10:00-16:30 (11 ~ 3月)

大人 8.95 ポンド、子供 4.95 ポンド、4歳以下無料

(入場料はマッシュ号を含む)

www.ssgreatbritain.org

世界で最初に外洋を航行した鋼鉄船 Brunel's ss Great Britain ⑥

ブルネルの蒸気船、グレート・ブリテン号

クリフトン・サスペンション・ブリッジを設計したブルネルによってつくられ、1843年に出航した世界初の鋼鉄船がこの「グレート・ブリテン」(名前についている ss は steam ship = 蒸気船の意)。1937年にフォークランド諸島にてその生涯を終えるまでは、豪華客船、貨物船、あるいは兵員輸送船として、多くの海を渡っていました。

1970年に生まれ故郷ブリストルに戻され修繕されたのち、現在は博物館となって、ヴィクトリア時代当時の船客や船員たちの船上での暮らしの様子を訪れる人たちに伝えています。チケットを1度購入すれば、購入日から1年間は自由に何度でも訪れることができるので、1年の間にたびたび足を運べば、海洋国イギリスの航海、船舶の歴史に詳しくなれるかも？

クリニックの建物の壁に描かれた三画関係の男女の様子



「生」バンクシーが見られる絶好の場所!

Banksy Graffiti Frogmore Street ⑧

バンクシーの落書き

単なる「落書き」か、はたまた「アート」なのか。「グラフィティ(落書き)アーティスト」バンクシーの、ウィットに富んだユニークな絵の実物を、ここブリストルで見ることができます。昨年、一夜にして突如街に現れたこの落書き、例によって「Vandalism(公共物の破壊・汚損行為)か、モダンアートとしての芸術作品か」で、ブリストル市民の物議を醸しました。結局、ブリストルのカウンシルがインターネットで市民に意見を求め、その結果、この絵は消さずにそのまま残すことが決定。今でもブリストルの中心地に近い、カウンシルハウスそばの通りで見ることが出来ます。

また、同じくブリストル市内の Gloucester Road には、別の作品(!?)、『Mild Mild West』があります。今や世界的に有名になったアーティスト、バンクシーの実物を見たいなら、ブリストルに行くのがおすすめです。

30 Frogmore Street Bristol BS1 5NA

ブリストルの建築の歴史が学べる

The Architecture Centre ④

アーキテクチャー・センター

Arnolfini のすぐ隣、港に面した好立地に位置するアーキテクチャー・センターは、ちょうど昨年、創立 10 周年を迎えました。規模は大きくないものの、ジュエリーから建築までの、幅広いジャンルで興味深い展示会を行っているギャラリーです。1階のショップでは、アート作品や、ハンドメイドのジュエリー、大人でも十分楽しむことのできるおもちゃなど、ほかでは見かけないようなものをいろいろ扱っていて、いつも人で混み合っています。気の利いた、とっておきの1点もののギフトを探すのにおすすめです。

Narrow Quay Bristol BS1 4QA

Tel: 0117 922 1540

11:00-17:00 (火~金) 12:00 - 17:00 (土、日)

月曜休

無料

www.architecturecentre.co.uk

小さな入り口を見逃さないようにして

橋の上ではストリート・ミュージシャンが演奏していることも



ホルン型の彫刻が特徴的。モダンなはね橋

Pero's bridge ⑤

ペロの橋

ブリストル港にかかる、ホルンを二つならべたような彫刻が印象的なこの橋は、アイルランド人アーティスト、エリス・オコノル (Ellis O'Connell) によって 1999 年につくられたはね橋です。橋の名前は、1783年にカリブ諸島の島から、奴隷としてここブリストルに連れて来られた黒人、ペロ・ジョーンズ (Pero Jones) にちなんでつけられたと言われています。

色とりどりの家とのコントラストが美しい港からの教会の姿



イングランドで最も美しい教会!?

St Mary Redcliffe Church ⑦

セント・メアリー・レドクリフ教会

1574年にここを訪れたエリザベス1世から「イングランドで、最も美しく魅力的」と称賛されたという教会は、13世紀に建てられた、ゴシック様式の建物です。遠くからでも教会を確認できる目印にもなる90メートルの尖塔は、1872年に再建されたもので、イングランドで2番目に高いとのこと。

教会内の天井の装飾と鮮やかなステンドグラスのコンビネーションは特に素晴らしく、また夕刻にブリストル港から眺める教会の姿は、情緒が漂い、その荘厳な姿にいつそう趣きを加えます。

12 Colston Parade Bristol BS1 6RA

Tel: 0117 929 1487

8:30-17:00 (夏期の月~金)、9:00-16:00 (11月~イースター)

の月~金) 8:00-19:30 (日) 土曜休

無料

www.stmaryredcliffe.co.uk

Banksy って誰?

日本でも、数年前からすでに「ブーム」の感すらあったバンクシーなので、彼のことをご存知の方も多いと思いますが、実は彼はブリストルの出身です。以前はブリストルにアトリエを持ち、地元レコードレーベルのアートワークを手がけたり、ブリストルの街のあちこちにグラフィティ(落書き)を描いていたバンクシー。

彼の作品の多くはステンシルで描かれていますが、それは、製作時間を短縮するために選ばれた技法で、彼がグラフィティをはじめた当初は、ハンドペイントで描かれていたそう。グラフィティが、Vandalism(公共物の破壊、汚損行為=違法行為)に当たるといふこともあり、彼は本名を明かさず、正体は不明ということになっていますが、ブリストルには、バンクシーの友人や、彼と一緒に仕事を手がけたという人たちも多くなるとのことです。

2005年には4冊目の作品集『Wall and Piece』が発売され、書店によってはベストセラーになるなど、ますます注目のバンクシー。アーティストが多く集まるブリストルにおいても、抜きん出た存在といえるでしょう。
www.banksy.co.uk

